

正倉院展

ごあいさつ

正倉院宝庫には聖武天皇のご遺愛品をはじめ、皇族や貴族たちが東大寺のほとけに献納した品々、東大寺で用いられた仏具類や文書などが納められており、その数は9,000件に及ぶと言われています。正倉院展では宝物の全体像がうかがえるよう、代表的な品を中心に例年70件前後が公開されます。今年も平螺鈿背円鏡や漆金薄絵盤といった著名な品をはじめ、調度品、楽器、伎楽面、遊戯具、仏具、佩飾品、年中行事品、文書など66件が出陳されていますが、特に宝物を守り伝えてきた人々の営みがうかがえる品々が多い点に特徴があります。

聖武天皇のご遺愛品からは、華麗な螺鈿装飾で著名な平螺鈿背円鏡、天皇の身近に置かれた屏風が出陳されています。平螺鈿背円鏡は3面展示されていますが、2面は鎌倉時代の盗難で破損しており、うち1面は明治時代に復元修理されています。宝物に携わった人々が、鏡の破片1つさえおろそかにせず、後世に伝えようとしたことがうかがえます。屏風は鳥毛帖成文書屏風、鹿草木夾纈屏風、菴室草木鶴夾纈屏風が出陳されており、奈良時代における宮中の暮らしを偲ぶことができます。その中には断片の状態でごくから発見され、修理を経ることで聖武天皇ご遺愛の屏風と確認された宝物も含まれています。

このほか、宝物の点検・曝涼（虫干し）の記録である弘仁二年勅物使解及び正倉院塵芥文書第十八卷、調湿性と密閉性に優れ、宝物の保管に大きな役割を果たした古櫃、宝庫の扉に通されていた正倉院古鑰など、宝物の保管に関わる品も出陳されています。また、江戸時代になると宝物の整理や保存に対する意識が高まりますが、それに関わる品として徳川家康が奉納した慶長櫃、天保年間に裂の整理のために仕立てられた東大寺屏風に貼られていた緑地霰花文錦、樹下鳳凰双羊文白綾も出陳されています。

本展を通して、奈良時代の華やかな文化や暮らしを身近かに感じていただき、あわせて宝物を守り伝えてきた先人たちの努力を知っていただければ幸いです。

最後になりましたが、本展の開催にあたりご高配、ご協力を賜りました宮内庁正倉院事務所をはじめ、関係の皆様にあつくお礼を申し上げます。

平成25年10月

奈良国立博物館長 湯山 賢一

正倉院展をご覧になる前に

■正倉院とは？

奈良時代に、国、郡、大寺院などには「正倉」と呼ばれる倉庫が建てられ、穀物や種々の財物、道具類が納められました。正倉が置かれた区画が「正倉院」です。現在私たちが正倉院と呼んでいる校倉の建物は、東大寺正倉院の正倉ですが、他の役所や寺院の正倉院がすべて長い歴史の中で失われたため、今日では正倉院は固有名詞として使われるようになりました。なお、正倉院は明治時代に東大寺から宮内省に管轄が移り、現在は宮内庁正倉院事務所の管理するところとなっています。

正倉院宝庫は東を正面とした南北に長い建造物です。内部は北倉、中倉、南倉の三部屋に分かれており、北倉と南倉は校倉造、中倉は断面が長方形の板を積み上げて壁とした板倉造です。近年行われた年輪年代測定調査によって、宝庫は741年から750年の間に建立されたと推定されています。

■正倉院宝物とは？

宝庫には約9,000件の宝物が伝わっています。一口に正倉院宝物といっても、各宝物の由緒や伝来は実にさまざまです。宝物のうち中核と言えるべき存在は、聖武天皇が亡くなった四十九日目にあたる天平勝宝8歳(756)6月21日に、光明皇后が東大寺大仏に献納した聖武天皇のご遺愛品です。聖武天皇のご遺愛品は北倉に納められています。このほか、

天平勝宝4年(752)4月9日に行われた大仏開眼会において、皇族や貴族たちが大仏に献納した刀子や佩飾品、帯、数珠、ガラス器、銀器などを見ることができます。これらは主に中倉に納められています。また、大仏開眼会をはじめとする東大寺の法要で用いられた仏具類、楽器、樂舞の面や装束などが伝えられ、これらは主に南倉に保管されています。さらに、宝庫には宮中の年中行事で用いられた道具類のほか、武器・武具、文房具、遊戯具、飲食器、文書なども見られます。

宝物は聖武天皇の時代を中心に、奈良時代(8世紀)に製作されたものが大半を占めています。これに加えて、ササン朝ペルシア、中国・唐、朝鮮半島の統一新羅など、アジア諸国からもたらされた品も含まれています。

■正倉院展について

正倉院展は昭和21年(1946)に始まりました。奈良国立博物館での開催は今年で65回目ですが、東京国立博物館で開催された3回を含めれば68回目になります。正倉院宝物は現在も勅封によって厳重に管理され、古来行われた曝涼(虫干し)の伝統に則り毎年秋にのみ宝庫が開封されます。正倉院展はこの期間に合わせて行われ、毎年約70件前後の宝物が出陳されます。

第65回 正倉院展 出陳宝物

奈良国立博物館

番号	所在倉	名 称	略 称	員数	初出陳
1	北倉	平螺鈿背円鏡（へいらでんはいのえんきょう） 附 題箋（だいせん）	螺鈿飾りの鏡	1 面	
2	北倉	平螺鈿背円鏡（へいらでんはいのえんきょう） 附 緋絶帶（ひのあしぎぬのおび）	螺鈿飾りの鏡	1 面	
3	北倉	平螺鈿背円鏡残欠（へいらでんはいのえんきょうざんけつ）	螺鈿飾りの鏡の残欠	^{14片} (1面分)	○
4	北倉	漆皮箱（しっぴばこ）	鏡の箱	1 合	
5	北倉	鳥毛帖成文書屏風（とりげじょうせいぶんしょのびょうぶ）	鳥毛文字の屏風	2 扇	
6	北倉	鹿草木夾纈屏風（しかくさききょうけちのびょうぶ）	板締め染めの屏風	1 扇	
7	中倉	鹿草木夾纈屏風（しかくさききょうけちのびょうぶ）	板締め染めの屏風	1 扇	
8	中倉	揩布屏風袋（すりぬののびょうぶぶくろ）	屏風の袋	1 口	
9	中倉	菴室草木鶴夾纈屏風（あんしつくさきつるきょうけちのびょうぶ）	板締め染めの屏風	1 扇	
10	中倉	揩布屏風袋（すりぬののびょうぶぶくろ）	屏風の袋	1 口	
11	北倉	弘仁二年勅物使解（こうにんにねんかんもつしのげ）	宝物点検の記録	1 巻	
12	南倉	檜和琴（ひのきのわごん） 附 玳瑁絵（たいまいえ）	やまごと	1 張	
13	南倉	尺八（しゃくはち）	たてぶえ	1 管	
14	南倉	横笛（おうてき）	よこぶえ	1 管	
15	南倉	笛吹袍（ふえふきのほう）	楽人の上着	1 領	
16	南倉	伎楽面 酔胡従（ぎがくめん すいこじゅう）	伎楽の面	1 面	
17	南倉	伎楽面 治道（ぎがくめん ちどう）	伎楽の面	1 面	
18	南倉	伎楽面 太孤父（ぎがくめん たいこふ）	伎楽の面	1 面	○
19	中倉	投壺（とうこ）	投げ矢の壺	1 口	
20	中倉	投壺矢（とうこのや）	投げ矢	8 隻	
21	中倉	漆彈弓（うるしのだんきゅう）	遊戯用のはじき弓	1 張	
22	南倉	漆金薄絵盤（うるしきんぱくえのばん） 附 蓮弁（れんべん）	香印坐	1 基	
23	南倉	黒漆塗香印押型盤（くろうるしぬりこういんのおしがたばん）	香印の押型	1 枚	
24	南倉	黒漆塗平盆（くろうるしぬりひらぼん）	香印の受け皿	1 枚	
25	南倉	銅蓮弁残欠（どうのれんべんざんけつ）	銅製の蓮弁	1 枚	○
26	中倉	白石火舎（はくせきのかしゃ）	大理石の香炉	1 口	
27	南倉	金銅六曲花形坏（こんどうのろっきよくはながたはい）	花形の容器	1 口	
28	南倉	密陀絵盆（みつだえのぼん）	油絵を施した盆	1 枚	
29	南倉	漆彩絵花形皿（うるしさいえのはながたざら） 附 旧脚（きゅうきゃく）	花形の脚付き皿	1 枚	
30	南倉	鯨鬚金銀絵如意（げいしゅきんぎんえのによい）	鯨の鬚の如意	1 柄	
31	南倉	黒柿蘇芳染金銀絵如意箱（くろがきすおうぞめきんぎんえのによいばこ）	如意の箱	1 合	
32	中倉	白檀八角箱（びゃくだんのはっかくばこ）	献物箱	1 合	
33	中倉	蘇芳地金銀絵箱（すおうじきんぎんえのはこ）	献物箱	1 合	
34	中倉	彩絵長花形几（さいえのちょうはながたき） 附 白綾几褥（しろあやのきじょく）	献物用の台	1 基	
35	南倉	夾纈羅几褥（きょうけちらのきじょく）	献物用の台の上敷き	1 張	
36	中倉	雑帶（ざったい）	組みものの帯	1 条	
37	中倉	金銀絵小合子（きんぎんえのしょうごうす）	小型のふたもの	1 合	
38	中倉	紫檀銀絵小墨斗（したんぎんえのしょうぼくと） 附 旧糸車（きゅういとぐるま）	小型の墨壺	1 口	
39	中倉	斑犀把金銀鞘刀子（はんさいのつかきんぎんのさやのとうす）	小刀	1 双	
40	中倉	斑犀把紅牙撥鏤鞘刀子（はんさいのつかこうげばちるのさやのとうす）	小刀	1 口	
41-1	中倉	白牙把水角鞘小三合刀子（はくげのつかすいかくのさやのしょうさんごうとうす）	三本組の小刀	1 口	
41-2		白牙把水角鞘小三合刀子 模造（はくげのつかすいかくのさやのしょうさんごうとうす もぞう）		1 口	
42	中倉	三十足几（さんじゅっそくき）	卯日の儀式用の机	1 基	
43	南倉	黄地花文縹羅羅（きじかもんろうけちのら）	卯日の儀式用の机の覆い	1 帳	○
44	南倉	黄地花文縹羅羅残片（きじかもんろうけちのらざんべん）	卯日の儀式用の机の覆いの残片	1 片	
45-1	南倉	椿杖（つばきのつえ）	卯日の儀式用の杖	1 柄	
45-2	南倉	椿杖（つばきのつえ）	卯日の儀式用の杖	1 柄	
46	中倉	正倉院古文書正集（しょうそういんこもんじょせいしゅう） 第三十五巻	播磨国郡福帳、備中国大税負死亡人帳、周防国正税帳	1 巻	
47	中倉	続修正倉院古文書（ぞくしゅうしょうそういんこもんじょ） 第九巻	近江国志何郡古市郷計帳手実	1 巻	
48	中倉	続修正倉院古文書（ぞくしゅうしょうそういんこもんじょ） 第二十三巻	巧清成等月借錢解ほか	1 巻	
49	中倉	続修正倉院古文書別集（ぞくしゅうしょうそういんこもんじょべっしゅう） 第十一巻	奉写一切経所解案	1 巻	○
50	中倉	続々修正倉院古文書（ぞくぞくしゅうしょうそういんこもんじょ） 第三十八帙 第八巻	大神宮飾金物注文ほか	1 巻	
51	中倉	東南院古文書（とうなんいんこもんじょ） 第二櫃 第三巻	仏像及堂宇修造文書	1 巻	○
52	中倉	正倉院塵芥文書（しょうそういんじんかいもんじょ） 第十八巻	綱封蔵見在納物勘検注文	1 巻	
53	南倉	正倉院古鑰（しょうそういんのこやく）	正倉院正倉の錠と鍵	1 口	○
54	南倉	鑰匙（やくし）	鍵	1 本	○
55	南倉	飾金具（かざりかなぐ）		2 枚	○
56	南倉	扉柄請金具残欠（とびらはごうけかなぐざんけつ）	軸を受ける金具の残欠	8 片	○
57	北倉	古櫃（こき）	宝物の収納容器	1 合	○
58	北倉	古櫃（こき）	宝物の収納容器	1 合	
59	中倉	慶長櫃（けいちょうき）	宝物の収納容器	1 合	○
60	南倉	緑地唐草櫻花文錦 他（みどりじからくさたすきかもんのにしき）	錦の裂の残片など	1 扇	○
61	北倉	緑地霰花文錦（みどりじあられかもんにしき）	天蓋の飾り	1 片	
62	北倉	樹下鳳凰双羊文白綾（じゅかほうおうそうようもんしろあや）	樹下鳥獸文様の綾	1 片	
63	南倉	花喰鳥刺繡裂残片（はなくいどりのししゅうぎれざんべん）	鳳凰の刺繡の残片	1 片	
64	聖語蔵	大乘阿毘達磨雜集論（だいじょうあびだつまぞうしゅうろん） 卷第十四	唐経	1 巻	○
65	聖語蔵	毘耶娑問経（びやしゃもんきょう） 卷上	光明皇后御願経	1 巻	○
66	聖語蔵	摩訶僧祇律（まかそうぎりつ） 卷第一	今更一部一切経	1 巻	○